

令和8年 6 月 月例記者会見 市長原稿(議案以外)

それでは、議案以外の資料についてご説明します。

【市長】

資料No.7「裾野市保護者等相談窓口実証事業」についてです。

昨年度に引き続き、裾野市では、「保護者等相談窓口」を設置し、保護者や地域の方からの連絡対応を行っていきます。

これは、文部科学省の「学校における保護者等への対応の高度化事業」の採択事業者であるトランス・コスモス株式会社と連携し、保護者や地域住民からの学校への問い合わせ業務に対応していく実証事業です。

これにより、問い合わせへの速やかな対応や専門家等との連携が可能になり、対応の質が向上し問題の早期解決につながると考えています。また、教職員の働き方改革にも資するものであり、教職員が子どもたちと向き合う時間を増え、より質の高い教育の実現につながることを期待しています。

詳細は、学校教育課 山本係長より説明いたします。

【学校教育課 山本係長】

学校教育課山本です。本事業を行う背景としましては、社会環境が多様化、複雑化する中で、近年、保護者や地域の方からの様々な問い合わせに対して学校だけでは解決が難しい事案が、学校運営上の大きな課題になっており、様々な専門家と連携した行政による支援が必要な状況になっています。学校における働き方改革を加速させる観点からも、案件を専門的な機関が一度整理し、保護者等対応の質の向上、加えて、教職員の負担軽減や業務効率化が求められています。

そこで、昨年、保護者や地域住民からの問い合わせ対応の際に、専門家による相談窓口を新設しました。学校では対応が難しい事案を早期解決に導くことができたり、教職員の連絡対応の業務効率化が図れたりすることで生み出された時間で、教職員が子どもたちと向き合うことのできる時間を増やし、教職員と保護者、地域が連携したより効果的な教育活動を行うことができるようにしていきました。その相談窓口を今年度も開設します。

昨年度の実証事業では、これまで教職員が対応していた電話の内容を、メールで短時間のうちに把握できるようになったことで業務の効率化に繋がったり、その後学校が対応する場合でも、折り返しの連絡までに時間的猶予ができたことで、よりの確な回答をすることができるようになったりしました。また、放課後、留守番電話に切り替わった後も20時まで窓口で連絡をすることができたり、メール、チャット等様々なツールを使い分けて補完し合ったりしたことで、保護者の利便性向上に貢献できたと考えられます。

一方で、緊急で連絡を取りたいときに時間がかかってしまう、学校からの電話の折り返しをしたのにすぐに繋がらないなどで不便さを感じる教職員や保護者も数多くいました。

そこで、今年度は、保護者が学校ごとに設定された「保護者等連絡窓口」に電話をすると、すべての電話が連絡窓口へ転送されますが、緊急の連絡と学校からの電話の折り返しのみ、音声案内による番号選択で学校へ直接つながることができる仕組みを構築しました。ただし、須山地区は電話回線の関係で転送、番号選択ができないため、昨年度と同様の取組となります。

また、今年度も、内容によっては、コーディネーターやカウンセラー等、様々な専門家と連携して対応していきます。

この実証事業は、令和8年6月から令和9年1月末まで行います。

以上で説明を終わります。

【市長】

次に、資料No.8「ル・マン24時間レースパブリックビューイング in 裾野」についてです。

世界3大自動車レースの一つであるル・マン24時間耐久レースが、今年は6月13日から14日にかけて開催されます。

裾野市では、トヨタ自動車様との共催で、レース映像の上映をメインとしたパブリックビューイングイベントを6月14日に裾野市民文化センター多目的ホールで開催いたします。

ル・マンを走行するマシンはトヨタ自動車株式会社東富士研究所で開発されています。皆さんと一緒に声援を送り、メイド・イン・スソノの技術が世界に羽ばたく様子を映像で観戦します。

現地フランスとの同時中継を織り交ぜながら、サーキットの魅力をまるごと感じていただけるイベントです。

当日は、開発メンバーによるレース解説や開発秘話なども予定しています。ぜひ、事前の告知と当日の取材をお願いいたします。